

まきどき・植えどき・収穫どき

どきどき情報 12月

野菜の作業 今年の栽培の反省を行い、来年の栽培計画をたてましょう！

種まき	収穫	栽培・管理のポイント
二十日大根 ハウレンソウ 小松菜 など	葉ネギ チンゲンサイ ナガイモ 小松菜 二十日大根 ハウレンソウ など	<p>アスパラガスの冬季管理と次年度に向けた計画</p> <p>アスパラガスは、早い時期からの人気商品の一つで、新植もされています。しかし、露地栽培を中心に茎枯病が目立ち欠株となっている畑も見受けられますので、定植後3年までの畑では、補植の準備をします。</p> <p>一方、収穫開始後6～7年を過ぎての茎枯病等の多発は、収益性から見て大きな打撃となることから、株養成期の防除の徹底、簡易雨よけ、残茎の適正処理などが重要で、特に罹病茎は畑外へ持ち出すとともに地表面のバーナー処理等を行います。それでも回復しない場合は改植、別ほ場への新植、品目転換を検討しましょう。</p> <p>なお、改植や品目転換はアレロパシー物質(生育阻害物質)の影響があるため土づくりやアレロパシーの影響を受けにくい品目を導入します。(品目による影響の程度は不明ですが、レタスは影響を受けやすいです。)</p> <p>農業機械の整備と収納</p> <p>農繁期を終え農機類の収納の際には、清掃を行い、燃料タンクは空にする、バッテリーは外し充電をしておく、エンジンオイルの点検・交換、動噴は水抜きを完全に行なった上で、ドレン栓を開けたままにする等の後、乾燥した場所に保管しましょう。</p>



【試験研究機関からの情報（平成21年度 普及に移す農業技術から抜粋）】

～「植物由来原料成分分解性マルチの特徴」～

1 背景・ねらい

県内の野菜マルチ栽培では徐々に生分解性マルチの利用が増えてきている。現在市販されている生分解性マルチは、原料が石油由来による製品が大部分である。近年、植物由来の原料を多く含む生分解性マルチ（アグリエース®）が開発され、環境保全型農業に対応した資材と考えられることから、マルチの葉野菜に対する適用性に」について検討した。

2 成果の内容・特徴

- (1) 全面マルチャーによる展張及びバーナーによる植え穴開け等の作業性については、ポリエチレンマルチと同程度である。収穫後のロータリーによる耕起時の絡まりも見られない。
- (2) はくさいではポリエチレンマルチと同程度を示す。
- (3) レタスではポリエチレンマルチや慣行のキエ丸(生分解性)より、若干生育が遅れる傾向を示す。
- (4) 慣行のキエ丸と同程度の生分解性を示し、通気性はやや高い。

3 利用上の留意点

- (1) 今回供試したマルチは、「アグリエース®」(昭和高分子㈱)で日本バイオプラスチック協会のグリーンプラ認証を受けた、デンプンとポリブチレンサクシネートを主成分とする生分解性マルチであり、2～3ヶ月程度の短期作に適している。
- (2) アグリエース®の規格（メーカー資料からの抜粋）
幅：90・135・150 cm等、色：黒・透明・白黒、加工：水抜き穴、植え穴加工可能。
- (3) 慣行の成分分解性フィルムより通気性がやや高く、作目によっては生育が遅れることがあるので、マルチ下の土壌水分に注意する。
- (4) (上記以外は、)既存の生分解性マルチと類似した特性なので、これまでの普及技術(生分解性マルチの普及技術)を参考に利用する。なお、普及対象地域は、県内全域である。



農業豆知識

野菜がトウ立ち（抽台）する仕組み

野菜の中には、花が咲かないと困るものと花が咲くと困るものがあります。花が咲くと困る野菜が何らかの要因で茎が立ち生長し花が咲くようになってしまったものを「トウ立ち」と言っています。

なぜ、トウが立ってしまうのか。まず、トウが立つとは植物の生長点（茎頂）にできた花芽が伸長することで、花芽は、それまでは生長点で葉のもととなるもの（葉原）を作っていた部分が花芽に変化します。これを「花芽分化」といいますが、花芽分化をする条件には、温度条件の変化（高温や低温）、日長条件の変化（長日や短日）、植物の生長の度合いによるものに大別されます。

なお、これらの要因は品目により関連したり、強弱がありますが、代表的な野菜を例に挙げ紹介します。まず、温度条件によるものとして、ダイコンは低温を受けて花芽が分化し、その後の温度上昇により抽台が起きます。低温を感応するのは水分を吸収した状態のタネの時期で、0～5℃の低温に一定期間遭ったうえで発芽すると、生長するときに低温に遭わなくても花芽が分化してしまいます。

また、成長過程でも低温に遭遇すれば花芽分化し、抽台・開花する性質を持っており、つまり、ダイコンはいつ低温にあっても花芽分化する野菜です。（ダイコンと似た性質を持つ野菜は、カブ、ハクサイ、ツケナ、エンドウなどです。）

逆に、高温の影響を受け花芽分化するものとしては、レタス、スイートコーン、エダマメなどがあります。また、一定の大きさに育ってから低温に遭うことにより花芽分化するものとしては、キャベツ、ブロッコリー・タマネギ、ネギ、ニンジン、イチゴなどがあります。

一方、日長により抽台する代表的な野菜としては長日植物のハウレンソウがありますが、花芽分化と抽台を分けて見ると花芽分化に関しては、ある程度生長すると花芽分化が起きます。分化した花芽が生長して抽台するのに東洋系品種は西洋系品種に比べ短い日長に敏感に反応し、花芽が生長し抽台しますが、西洋系品種はより長い日長と高めの温度にならないと抽台しないということで、夏に向かった栽培では西洋系等の晩抽性の品種が用いられています。

冬期出荷に向けた小物野菜の試験栽培の状況（以降、試験状況等をお知らせする予定です）

野菜類の出荷が少なくなってしまう冬期間の販売野菜の確保に向け、11月上旬から、ハウス栽培（二重被覆、無加温）での試作検討を始めました。栽培形態としてはハウスでセル苗育苗を行い、栽培用ハウスに移植して栽培・収穫を行っていく予定ですが、トレーでの収穫を予定している品目もあります。11月下旬の段階では、育苗ハウスでの育苗中（下段写真のとおり）です。

12月中旬に移植する予定ですが、早いものは移植が可能な状況のものもあります。

育苗中の試作品目と品種一覧

品目	品種とトレー様式	品目	品種とトレー様式
ハウレンソウ	サラダアカリ(200穴)	水菜	京みぞれ(200穴、72穴)
小松菜	楽天(200穴、72穴)	中国野菜	チンゲンサイ(200穴、72穴)
畑菜	白茎畑菜(200穴)	カブ類	本紅赤(72穴)、金町小カブ(72穴)
ナバナ	冬華(200穴)	二十日大根	白長二十日(アイシルク:128穴) 赤丸二十日(コメット:128穴、72穴)
春菊	(200穴)	リーフレタス	ガーデンベビー(128穴、バラ蒔)



あさつゆ連絡先 電話:FAX 41-1062

技術事項作成協力：上小農業改良普及センター
地域係 中澤普及員（25-7156）